

風土記の丘の花だより²⁷⁶

今、そしてこれから見られる植物(2025年6月7日)

この花だよりをご覧になる頃には梅雨入りの便りが届いているかもしれませんね。雨の日が多くなると、外歩きがおっくうになりがちです。でも、傘をさしてのお散歩もまた風情があっていいものですよ。ただ、足もとにはご注意ください。



オカトラノオの花が咲き始めました。名前とは逆に清楚で魅力的な花ですね。「なんとかトラノオ」という名前の花がいくつかありますが、必ずしも同じ仲間とは限りません。花の集まり(花序・かじょ)の形が細長く、トラの尾に似ていることがその語源であることが多いようです。ウツギもそうですね。茎の中が空洞になっていたら「空木・うつぎ」ということで、違う仲間の植物でも「なんとかウツギ」という名前なのです。植物の名前はホントにややこしい！



ヤブムラサキに次いで、ムラサキシキブの花が咲いています。秋に実る紫色の実も多くの方がご存じでしょうが、花はそれほど知られていないのではないのでしょうか。古い図鑑にはクマツヅラ科として載っていますが、今はシソ科に分類されています。紫色の部分が花びら、黄色いのが雄しべ、白くて突き出ているのが雌しべです。花も実もきれいな紫色なので、紫式部の名前をいただいたのでしょうか。ヘクソカズラやコジキイチゴみたいな不名誉な名前を付けられずに、幸せな花ですね。



ノアザミの花がたくさん咲いています。葉の周りにとげとげがいっぱいあることで知られる植物ですね。アザミはキクの仲間で、丸い花は小さな花がたくさん集まったものです。そういえば、昔「あざみの歌」というのがありましたね。(ちょっと古いかな?) 詳しくは覚えていませんが、

♪いとしき花よ汝(な)はあざみ 心の花よ 汝はあざみ
♪ だったでしょうか? こんたとげとげの草花を愛しいと思う感性がステキですね。



ハルジオンの花は見なくなりましたが、続いてヒメジョオンがいっぱいさいています。ハルジオンとともに日本の風土にすっかり溶け込んでいますが、もとは北米辺りからの外来植物です。ものすごい勢いで増えて、空き地一面がこの花で埋め尽くされることもあり、見る分にはきれいでいいですが、土地を管理されている方にとっては憎き害草に他ならないことでしょう。刈り取られるまでの短い命かもしれませんが、ヒメジョオンを見かけたら、じっくりとこの可愛い花を愛でてやってください。

松下